

5 教育相談

1 事業目的

幼児児童生徒の心身の健全な発達を支援するため、市内在住及び市内の幼稚園、こども園、小・中・特別支援・高等学校に在籍する幼児児童生徒及びその保護者、教職員を対象に専門の相談員による教育相談を行う。

2 実施方針

- (1) 相談員の資質向上を図る。
- (2) 相談内容に合わせた対応や他機関との連携を図る。
- (3) 特別支援教育巡回相談を効果的に実施する。
- (4) スクールカウンセラーの資質向上を図る。

3 実施内容

- (1) 相談員の資質向上
 - ・ ケースカンファレンスやスーパービジョンをとおして相談員の資質の向上を図る。
- (2) 相談内容に合わせた対応や他機関との連携
 - ・ 相談ケースの受理を丁寧に行い、ケースカンファレンスで様々な角度から検討することで、よりニーズに合った相談の方向性を決定する。
 - ・ 学校園、学習支援室、こども家庭課等との情報交換を行うことで状況の把握に努め効果的な支援体制の構築を図る。
 - ・ 「発達支援センター」発足にあたり、こども家庭課との連携を図る。
- (3) 特別支援教育巡回相談の効果的な実施
 - ・ 相談内容に合わせて巡回相談を実施し、学校園における効果的な支援体制の構築を図る。
- (4) スクールカウンセラーの資質向上
 - ・ スクールカウンセラー研修を実施して資質向上を図る。

4 相談体制

(1) 面接相談

① ところの相談

臨床心理士など専門の相談員が、様々な悩みや問題について、本人や保護者、教職員を対象にしたカウンセリング、遊戯療法、箱庭療法等をとおして継続的なところの支援を行う。臨床心理士等の相談員が、必要に応じて学校やスクールソーシャルワーカー等との情報交換を行う。

② 特別支援教育相談(発達相談)

専門の相談員が、発達の遅れやアンバランスにより生活や学習上の困難が生じていると思われる子どもについて、学校や家庭での様子の聞き取りや行動観察、発達検査等を実施し、対応の仕方や支援の内容・方法、専門的な支援体制の構築等について助言を行う。

③ ことばの支援教室

専門の相談員(言語聴覚士)が、子どものことばに関する問題の理解や対応について、助言を行う。

④ 医療相談

精神科医が、心身に障がいのある子どもや心理的な原因により不登校やその他の問

題行動を起こす子どもについて、助言を行う。

⑤ 医療発達相談

発達を専門とする小児科医が、発達的な問題等により生活や学習上の困難が生じていると思われる子どもについて、助言を行う

⑥ スクールカウンセラーによる教育相談

市立小・中・高等学校にスクールカウンセラーを配置し、児童生徒の心の相談や教職員及び保護者に対する助言、援助等に当たる。また、教職員のカウンセリングマインドを高めることにより、問題行動等の未然防止や早期発見・早期解決を図るなど、学校における教育相談体制の充実を図る。

(2) 電話相談

相談員が電話による教育相談を行う。内容によっては、継続相談などを紹介する。

(3) 特別支援教育巡回相談

発達に起因する特別な支援を要する幼児児童生徒の在籍する学校園の教職員に対し、当該幼児児童生徒に対する指導内容・方法並びに専門的な指導体制の構築に関して助言を行う。巡回相談は、総合教育センター、伊丹特別支援学校、兵庫県立こやの里特別支援学校の巡回相談担当者および学校生活支援教員（平成 28 年度は瑞穂小学校、笹原小学校、西中学校に配置）により実施する。

年間 7～10 回程度、巡回相談調整会議を開催し、巡回相談担当者間の連携を図り、合理的配慮についての検討を行うとともに、学校園における専門的な指導体制の構築を進める。

(4) 連携

学校園、こども家庭課、保健センター等、他機関との情報交換や「発達支援学習会」（主催：伊丹特別支援学校）等への参加をとおして、相談・支援の連携を図る。不登校や行きしぶりについての相談事例については学習支援室担当やスクールソーシャルワーカー等を中心に情報交換を行い、登校支援の方向性について共通理解を進めるとともに、不登校に係る状況把握を行う。

5 研修

(1) スーパービジョン

相談事例の分析と今後の方向性について、相談員が大学教員等から指導を受ける。ケースカンファレンス（週 1 回）で効率よくケース検討ができるように、討議の内容や進め方について検証し、相談員の資質の向上を図る。

(2) スクールカウンセラー研修

スクールカウンセラーが関わる学校の諸課題について研修・協議し、スクールカウンセラーの専門性を向上させ、児童生徒の問題行動等の課題解決に資する。

6 成果と課題

(1) 成果

- ① スーパービジョンのケース検討を通してカウンセリングの問題点を明確にし、カウンセリングの方向性について考えていくことで、相談員の専門性を高めることができた。（2 月末現在 6 回 のべ 64 人）
- ② 学校園の教職員やこども家庭課担当者、スクールソーシャルワーカー等との情報交換を行うことにより、子どもへのより適切な支援や望ましい環境作りについて一緒に考えることができた。（2 月末現在 18 回 48 人）
- ③ 「特別支援教育巡回相談」では、相談員が子どもの特性に応じた支援方法や個別の指導計画の立て方等を教職員と一緒に考えた。また、学校園が専門的な指導

体制の構築を図ることができるよう、各種発達検査や具体的な教材の活用等について助言を行った。

(2月末現在教職員のべ面接人数 420人)

- ④ 「巡回相談調整会議」でケースカンファレンスや「支援や助言の実際のテーマで研修を実施することで、構成員の資質向上に役立てることができた。

(2月末現在6回 58人)

(2) 課題

- ① 不登校や発達上の課題、複雑な人間関係や家庭環境等による情緒不安を主訴とした相談ケースが増えている。十分に検討し、関係機関との連携を行い、適切な相談の実施や効果的な支援体制の構築に努めていく必要がある。また、スーパービジョンを通して引き続き相談員の資質向上を図っていく必要がある。
- ② 巡回相談実施の日程調整が難しく、また、各巡回相談担当機関が実施した回数に顕著な偏りが見られたことから、実施方法等について検討していく必要がある。
- ③ スクールカウンセラーに様々なケースへの対応が求められている。その為、スクールカウンセラーの実態に即した研修を行う必要がある。また、学校における教育相談の環境整備に努める必要がある。

7 実施状況

(1) ところの相談

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規ケース数(人)	101	7	7	5	4	8	4	8	7	3	4		158
全ケース数(人)	101	115	121	103	112	131	128	132	132	128	124		1327
のべ面接回数(回)	170	210	245	239	184	312	256	252	206	206	240		2520

○全ケース数（人）の相談内容内訳

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
相談内容	いじめ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
	不登校	32	41	43	30	37	47	43	43	42	41	40		439
	進路・学習	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
	友人関係	4	5	7	5	5	4	4	3	6	4	2		49
	異性・性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		1
	親子関係	3	3	3	1	5	6	10	10	11	11	10		73
	しつけ・子育て	19	20	21	18	17	20	17	19	19	18	19		207
	身体・健康・発達障がい	20	21	19	24	21	21	22	23	19	20	22		232
	性格・情緒不安	13	18	20	21	25	27	27	27	27	24	22		251
	反社会的行動	4	1	0	0	0	1	0	2	1	2	2		13
	学校・教師の指導	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
	その他	6	6	8	4	2	5	5	5	7	8	6		62
合計	101	115	121	103	112	131	128	132	132	128	124		1327	

(2) 特別支援教育相談(発達相談)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規ケース数(人)	7	4	3	6	12	4	9	6	4	3	5		63
全ケース数(人)	12	11	22	24	28	21	24	25	18	17	14		216
のべ面接回数(回)	12	11	24	24	31	25	24	25	18	17	15		226

(3) ことばの支援教室

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規ケース数(人)	2	3	0	0	1	6	2	2	3	2	0		21
全ケース数(人)	12	18	0	0	3	26	32	36	32	30	34		223
のべ面接回数(回)	12	22	0	0	6	26	32	38	32	32	36		236

(4) 医療相談

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規ケース数(人)	0	1	1	3	0	3	3	3	2	2	2		20
全ケース数(人)	0	1	1	3	0	4	3	3	2	4	4		25
のべ面接人数(人)	0	3	3	9	0	12	10	11	6	13	14		81

(5) 医療発達相談

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規ケース数(人)	0	3	3	4	0	2	3	2	3	3	3		26
全ケース数(人)	0	3	3	4	0	3	4	3	4	5	5		34
のべ面接人数(人)	0	7	9	12	0	10	11	11	11	17	13		101

(6) 特別支援教育巡回相談

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
全 ケース数(人)	0	9	7	4	0	17	15	5	7	6	5		75
のべ訪問回数(回)	0	6	6	4	0	17	21	16	20	25	20		135
のべ面接人数(人)	0	15	15	9	0	64	76	40	58	76	67		420

(7) 情報交換

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
全ケース数(人)	0	0	2	4	2	1	0	1	2	1	5		18
のべ面接人数(人)	0	0	4	8	4	6	0	5	9	2	10		48

(8) 電話相談

(件)

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
相 談 内 容	いじめ	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1		3
	不登校	1	2	4	1	0	0	0	1	1	3	4		17
	進路・学習	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1		4
	友人関係	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0		4
	異性・性	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0		3
	親子関係	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1
	しつけ・子育て	0	0	0	0	0	0	1	3	2	0	0		6
	身体・健康・発達障がい	1	0	3	1	2	1	1	3	2	1	0		15
	性格	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0		1
	情緒不安・集団不適応	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
	反社会的行動	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0		1
	学校・教師の指導	0	0	0	1	0	2	0	0	0	1	0		4
	その他	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	0		5
合計		4	5	10	5	3	3	3	8	10	7	6		64

(9) スーパービジョン

講師	講師の所属先	内容	参加人数
岩宮 恵子	島根大学教授	ロリータファッションという鎧をまとった男子生徒の面接過程	11
森 茂起	甲南大学教授	「長男への虐待」を端緒に來談した母親との面接過程	10
坂本 真佐哉	神戸松蔭女子学院大学教授	情緒的に繋がることの難しい母親との面接過程	12
高野 美由紀	兵庫教育大学教授	他者と良いイメージを共有しづらい男児への巡回相談事例	10
伊藤 良子	京都大学名誉教授	手を使わない中3女兒の母親との面接過程	10
伊藤 良子	京都大学名誉教授	不登校の思春期女子のプレイセラピー ～手で触ることができないCLをどう理解し寄り添っていくか～	11